

伊東市史だより

第14号 平成29年12月1日



上：宇佐美 花岳院 伝宝冠阿弥陀如来坐像（静岡県指定文化財）
 左上：宇佐美 花岳院 地藏菩薩立像 左下：身延山 寛林坊 日朝上人坐像（田畑みなお撮影）
 市史編さんをすすめるなかで新たに確認された、平安時代から室町時代の仏像と高僧像。日朝上人は宇佐美出身で、身延山久遠寺の11世貫首を務めた。各像はいずれも信仰の対象であり、非公開。



完成した『伊東市史 史料編』6冊

伊東市史編さんは、着々と成果が出ています。
 これまで刊行した図書を振り返ると『伊東市史 史料編』として古代から現代まで史料集五冊を刊行し、昨年度新たに『伊東市史 史料編 考古・文化財』

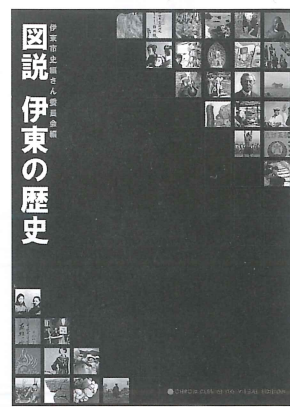


伊東市史編集委員長
 坂 詰 秀 一
 （立正大学名誉教授）

【特集】
 伊東市史史料編が完結

を発売して、計六冊となりました。これにより、史料編は伊東の原始時代から現代まで見通すことができる状態になりましたので、この六冊で完結と致しました。

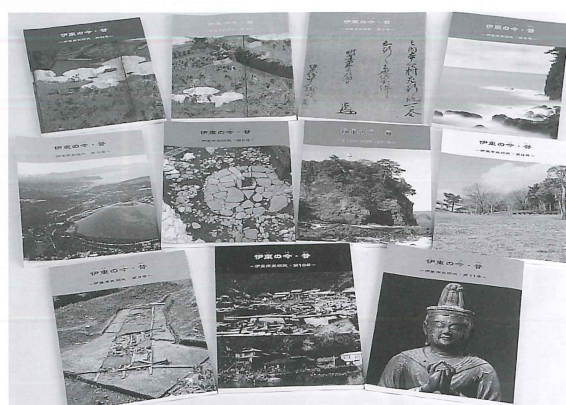
残る課題として、史料編を元にして伊東市民が歩んだ長い歴史を分かりやすく叙述する「通史」の刊行を進める段階になりました。



好評を得た『図説 伊東の歴史』の表紙

さて、これまでの伊東市史編さんを振り返りますと、『図説 伊東の歴史』は自治体史としては異例の二刷を発売するほど好評を博しました。図表や写真など多数使用した見ごたえのある内容により、市民ばかりか、観光で訪れた多くの人にも手にしていただいたようです。

毎年全戸配布した『伊東市史



『伊東市史研究〈伊東の今・昔〉』創刊号～第11号

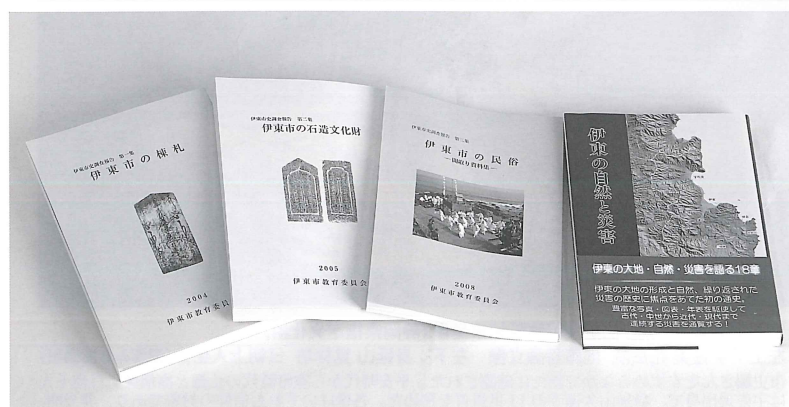
だより』は13号まで発行しましたが、鈴木藤一郎市長(当時)の「全戸配布で出しましょう」との英断をいただいたもので、これによって市民参加型の市史ができる窓口が開きました。

『伊東市史研究』の刊行

市史研究という雑誌の刊行も『伊東の今・昔』として13号まで発行しました。これは普通、学術雑誌の姿を取りますが、伊東市史では毎号、市史講演会の内容を載せており、市民向けにたいへん分かりやすい内容に仕上がっています。これも、他の自

治体史編さんにはない良い取り組みだと評価できます。

また、別編としてまとめた『伊東の自然と災害』は、東日本大震災のわずか一年後にまとめられたもので、地方自治体がその地域の災害史を一冊の本としてまとめた事例は他になく、画期的な内容でした。多くの災害を経験してきた伊東市が、その経



『伊東市史調査報告』(棟札、石造物、民俗)と伊東市史別編『伊東の自然と災害』

験知を将来につなぐためには市民必読の本だと思っています。

さらに地域の棟札・石造物・民俗調査に関しては「市史調査報告書」として三冊がまとめられています。寺社所蔵の棟札や石仏類などは重要な史料だと分かっているにもかかわらず、伊東市の調査ほど詳細かつ悉皆的な調査はなかなか実現できないのが通例です。棟札調査では建部恭宣先生(伊東市史専門委員、静岡県文化財審議委員)の指導を得て悉皆調査が行われました。これほど重要な成果が出せた図書は他にはないのではないかと評価しています。



『伊東市史叢書』第1集～第6集



『伊東市史 史料編 考古・文化財』に掲載した市内出土の縄文土器

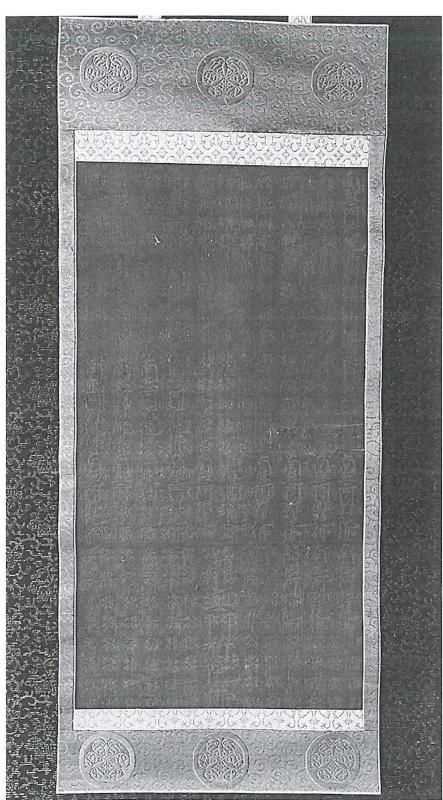
他にも加藤清志先生(市史編さん委員)の編集執筆で「伊東市史叢書」が六冊刊行されています。『伊東における狩野川台風の記録』や『伊東温泉のうつりかわり』などたいへん親しみ深い図書も刊行できましたが、これらは非常に人気が高く既に品切れしたものもありますから復刊も検討したいと思っています。

以上のように、これまでの伊東市史の仕事振り返ってみました。佃弘巳前市長、小野達也市長や歴代の市議会議長など伊東市史編さん委員会の皆様から

御理解とご協力をいただきながら、編集委員会の尽力を得て、これまで多くの成果を挙げることができました。なによりも、これらの伊東市史関係の図書は、市民のみなさん自身が自慢できる内容だと思っています。

考古史料編を発売

話が前後しますが、今春考古部会の担当による『伊東市史 史料編 考古・文化財』を刊行致しました。市内の遺跡は旧石器時代から現代に至る計一一〇箇所あまりを数えます。これらの遺跡からの出土資料を総合的に通覧する図書として解説文と共に編集されています。市職員が執筆したのが特色で、ほかの



宇佐美 浄信寺所蔵 熊谷次郎直実 母衣の名号「南無阿弥陀仏」の名号がならび、左下に「源空」の署名がみえる

市ではあまり見ることができません。三万数千年にも及ぶという市内の遺跡の盛衰の数々をこの本でお確かめいただければ幸いです。

また、この本では市内の寺社所蔵の仏像などの文化財についても主なものを取り上げて解説しています。

宇佐美の浄信寺所蔵の熊谷直実の「母衣の名号」というものを写真で示しましたが、これは一谷の合戦で平家の若武者平敦盛を殺してしまった熊谷直実が、これを悔いて、浄土宗の宗祖源空(後の法然上人)に相談したところ「南無阿弥陀仏」の名号を十萬遍唱えて供養する

よう諭された。それに従った直

実は、敦盛の遺品の母衣に名号一万遍を唱えることに「南無阿弥陀仏」と源空に朱書してもらったといえます。その遺品が保存されて来たのです。どうしてそれが宇佐美に伝えたのかを確かめる必要がありますが、これが江戸時代の間、浄信寺に保管されて来たことは確かです。

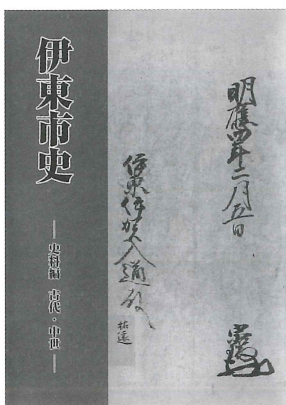
この「母衣の名号」という史料を考古・文化財編に収録で出来たことは大変注目されます。今後は、この「母衣の名号」が浄土宗のなかでどう位置づけられるか、確かめて参りますが、こうした日本史の中核に関係する史料を見落とすことなく市史の中に取り込んで発刊出来たことは幸いです。

『伊東市史』史料編の完結により、いよいよ「通史編」(全三冊)の刊行になります。伊東市の歩みを市民の皆さんのお手元にお届け出来る準備も整いました。ご期待ください。

『曾我物語』に描かれた
伊豆 伊東伊東市史編集委員
山本 幸司
(静岡文化芸術大学名誉教授)

『伊東市史 古代・中世史料編』の「古代」の部分について、ご紹介します。伊東に限らず、狭い単位の地域史について史料を集めようとすると、古代関係はなかなか史料が見つからないのが一般的で、その点、この史料編でも苦労しました。

その中で、やはり伊東といえ、『曾我物語』でよく知られている曾我兄弟を巡る挿話が一番知られているし、また市民の方々の関心も深いだろうと考え、時間的順序からいうと変則



『伊東市史 史料編 古代・中世』の表紙

的ですが、史料編の最初の第一章と第二章に曾我兄弟に関係する史料を集めました。

第一章では、伊東氏や曾我兄弟について語るときに、何といっても中心に据えなければならぬ『曾我物語』の中の、曾我兄弟と伊東氏に関係する部分を、「真名本」と「仮名本」の双方からエピソードごとに抜粋し、これだけで関連史料を網羅する形になっています。「真名本」「仮名本」それぞれのテキストとしての性格の違いについての解説も付して、一般には読みにくい「真名本」に触れることができる点は、この史料編の大きなメリットだと考えています。

第二章は、『曾我物語』以外の『保元物語』『平治物語』『平家物語』『源平盛衰記』『源平闘諍録』『承久記』などの軍記物語から、同様に伊東氏関係の部分を丹念に収集して載せました。この二つの章によって、史実と物語の世界を含めて、古代末期の伊東氏や曾我兄弟などについて詳しく知ることができます。

河津三郎祐泰落命の場と伝えられる血塚
伊東市赤沢・八幡野地区の境界付近にある血塚は、工藤祐経が伊東祐親をねらった暗殺現場と伝承されている。ここで落命した河津祐泰の子の曾我兄弟は、のちに父のあだ討ちを果たすことになるため、『曾我物語』の発端となる場である。

そして第三章には、いずれも断片的ですが、古代の伊東や宇佐美について関連する史料を最大限集めてあります。

中心となるのは平城京などから出土した木簡です。木簡というのは律令国家の時代に、地方から都に送られた調などの貢納物に、今で言う送り状や荷札として付けられていた木札ですが、その中で伊東市域の当時の地名を記載した物が発掘されていて、すので、それらを編集時点で分かっている限り収載しました。

木簡に残された地名・人名・貢納物の種類などの記録は、わずかではありますが、古代の伊東の姿を知る大事な手がかりになっています。貢納物の中にカツオに関する記載が多いこと

は、古代から伊東市域と漁業とが密接に結びついてきたこと示すものだと言えます。

また木簡の他の史料としては、もつとも古い地名に関する史料としての『和名類聚抄』、律令国家全域の神社や神名についての史料である『延喜式神名帳』から、伊東市域を含む伊豆国全体に関する部分、そして現在に残されていない『古風土記』の伊東市域に関する部分について、内容を推測するための史料として『鎌倉実記』の一部を収めました。

これらの史料と考古学的な遺跡や発掘物とを照らし合わせることで、少しでも古代の伊東の立体的な姿を、思い浮かべて頂ければ幸いです。

中世の伊東と宇佐美、
伊東氏と宇佐美氏伊東市史編集委員
山田 邦明
(愛知大学教授)

源頼朝が鎌倉に幕府を開いた時、伊東には伊東祐親、宇佐美には宇佐美祐茂・宇佐美実政という武士がいました。伊東祐親と宇佐美祐茂は同族で、藤原一門の工藤氏の流れ、宇佐美実政は平氏の子孫です。

伊東祐親は頼朝に敵対して滅ぼされて、いとこの工藤祐経が伊東を領し、祐経が曾我兄弟に討たれると、その子の伊東祐時があとを継いで、この祐時の子孫が御家人として続き、一門が繁栄することになります。

南北朝内乱のさなか、伊東祐重が日向(宮崎県)に下向して、この一流は日向で活動することになります(江戸時代の飢肥藩主につながる家です)が、伊東にいた一門もありました。この伊東氏は政争に敗れて駿河の安部山

(静岡市)に籠りますが、応仁の乱のあととくらの時期に伊東に戻ったようです。戦国時代には小田原の北条氏の家臣として活躍し、北条氏滅亡後は徳川氏に仕えて、子孫は旗本として続きました。

宇佐美の宇佐美祐茂・宇佐美実政はいずれも頼朝に従い、幕府の御家人として活動しますが、実政の子孫(平氏の宇佐美氏)は鎌倉時代に没落したようです。祐茂の子孫(藤原氏の宇佐美氏)は宇佐美の領主として続き、戦国時代のはじめごろまでこの地を支配しました。

伊東氏と宇佐美氏は、数百年にわたって地域の領主として支配にあたり、またその一門は日本列島の各地に広がっていたのです。

伊東氏や宇佐美氏が活躍した時代、伊東の中心部は「伊東七郷」とよばれ、宇佐美・川奈・赤沢といった郷村も当時から存在していました。また伊東には湊があつて、伊豆の山から切り出された材木がここに運ばれ、

船で海を渡っていたようです。

『伊東市史 史料編 古代・中世』の編集にあたっては、中世のこの地域(伊東や宇佐美など)に直接かわる史料と、伊東氏や宇佐美氏に関係する多くの史料をあわせて収録することになりました。

まず「第四章 中世の伊東と宇佐美」では、中世の伊東と宇佐美、伊東氏と宇佐美氏にかかわる史料を年次順に配列しました。史料の量は膨大で、全部で七三七点、四〇〇ページを超えるものとなりました。

編年の史料集になじまないものについては、いくつかのまとまりを作つて、個別に収録しました。まず列島各地に広がった伊東一門や宇佐美一門にかかわる史料を「第五章 各地の伊東氏と宇佐美氏」に収め、流罪となつて伊東に来た日蓮と、日蓮宗寺院にかかわる史料は「第六章 伊東における日蓮と日蓮宗」に収載しました。

伊東氏の系図を集成

第七章には、伊東一門と家臣

たちの系図を載せました。

伊東市には今でも観光を兼ねて、先祖の地の伊東を訪ねて来る方が数多いと聞きます。そうした方々にも、また、市民のみなさんにも知ってほしいのは、全国の伊東さん、宇佐美さんは、すべてこの伊東市域が発祥地であることです。

各地の伊東家では、江戸時代などに系図が失われたりしていることが多いのですが、どの伊東さん、宇佐美さんも間違いなく伊東から派生した一族です。その意味では先祖探しの旅の終着点は「伊東大系図」などになるはずで

「第八章 伊東・宇佐美関連地誌」では、伊東や宇佐美のことを詳しく記している『豆州志稿』と『伊東誌』の記事を紹介しました。

はじめは、どれくらい史料があるか、見当がつかなかったのですが、調べてみると予想を超えた史料がみつかり、分厚い史料集ができあがりました。広くご利用いただければ幸いです。



古文書の保管状況（文化財管理センター 特別収蔵庫）

史料の重要性

伊東市史
副編集委員長
田上 繁
(神奈川大学教授)

江戸時代の古文書史料

昭和三十三年に刊行された旧版『伊東市史』の編さんには阿部善雄東京大学史料編纂所教授（当時）が大きく関係しました。阿部先生はこの時、伊東市内の江戸時代の古文書を自宅にお持ちになって宿題とされていたようです。近年、亡くなられた時

に遺品のなかから伊東市の古文書が見つかり、私も日本常民文化研究所が遺品整理のような形で関係して、古文書はそれぞれの関係先に返却されました。その返却作業の実務を担当されたのが網野善彦先生です。伊東市への史料返却では網野先生自身が古文書を選別されていたことを記憶しております。そうした御縁から、現在自分が所長をしている神奈川大学日本常民文化研究所の所員が新しい伊東市史編さんをお手伝いすることになりました。

これまでの伊東市史編さんで原始時代から現代までの史料集の刊行を終えましたが、改めて「史料」というものの重要性を感じています。古い文書は難解ですし、あまりきれいな物ではないので、邪魔物扱いされる時があります。しかし、古文書などの史料が残っていないと、その町の歴史はまったく分かりませんし、町の将来像を考えるにしても何も始まらない結果になると思います。その意味で「史

料」は地域の特性を考えるうえで、最も基本となる情報源だと思います。

伊東市史では古文書解説サークルなどの応援を得て約七〇〇〇点におよぶ江戸時代の古文書を解説してきました。旧版『伊東市史』に比べると十数倍に達する豊富な量の古文書を史料集として刊行できました。今後は、この史料集を活用しつつ、地域の歴史を正しく後世に伝えるための仕事を進めたいと思います。

私は沼津市史の編さんにも関係しましたが、近年、伊豆諸島の三宅島でも村史の編さんに取り組みもうとしているそうです。その三宅島の教育長さんのお話では噴火などで史料が被災して焼失することへの深刻な危機感があるそうです。古文書が焼失する前に本として残しておきたいと思い立たれたそうですが、島内には史料を読める専門家がいないので、具体的な段取りや作業の進め方などまったくわからないとのことでした。い

近代伊東の史料の宝庫

伊東市史
近現代部会専門委員
加藤 好一
(元琉球大学教授)

昨年までに刊行した『伊東市史史料編・近現代Ⅰ・Ⅱ』には、加藤清志（温泉・文化）・小宮一夫（政治・産業）両先生と分担し、合せて一六四二点の史料を収めることができました。ずいぶん多いと思われるかもしれませんが、その何十倍もの文書を読み解き、悩み迷いながらここまで絞り込んだというのが正直なところです。近現代の伊東地域には、政治・産業・社会・生活まで、それほど良質な史料が多く残されていたと言えるでしょう。

幼児から見える伊東の近代

例えば、伊東幼稚園の校務日誌は一部欠損とはいえ大正十一年から平成十二年までの二十八冊が残っており、全て読んでいくことができました。

防空頭巾をかぶって避難訓練
（『昭和19年 おもひで 町立伊東幼稚園』から）

戦前はアメリカ人形歓迎の歌を歌っていた園児たち。でも、空襲が激しくなる昭和二十年には、先生に寄り添い警報におびえながら緊張した日々を過ごします。ところが戦後になると一転して伊東に來たアメリカ兵になつき、外を通るメーデーの隊列にはしゃぎ。高度成長時代にはテレビに夢中になりますが、無残な交通事故故死の記事も増えて胸を痛めました。

幼児史に関するこれらの史料を各時代に即して収録できたの

も、他にはない伊東ならではの特色であると思います。

戦時中の卒園アルバムにも貴重な写真がありました。

回覧板文書も市民が提供

また、戦時中の回覧板の文書などは、普通なら処分されたり戦後の混乱の中でなくなってしまうものです。

ある市民からはその文書の束を提供していただき、戦時中の伊東の日常生活がリアルに分かりました。

難しい漢字が詰まった史料だけでなく、こうした身近な文書も史料編・近現代Ⅰ・Ⅱには、多く載せられています。まずはこのような史料から読んでいってはどうでしょうか。

町長さんの心の中は？

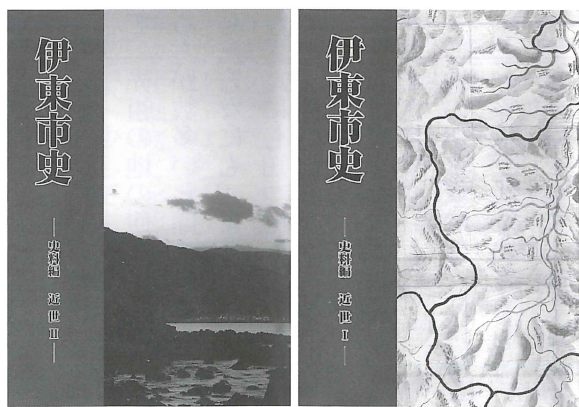
政治面では、昭和五年に就任した鈴木徳太郎伊東町長の日記も市民から快く提供していただきました。

鉄道もない町で高等女学校建設に乗り出した町長は、婦人たちとどう協力してその実現にこぎつけたか。日々何を課題とし

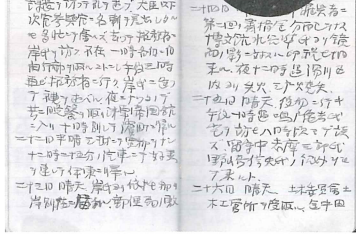
るいとアドバイスを求められました。伊東市史の事業方式を真似ることをお奨めしました。

伊東市史のように史料集を刊行して子孫に史料を正確な姿で伝え、その一方で、現在の我々自身も歴史から学び、若い世代にもそれを伝えられる図書の両方を用意しているという点で、伊東市史は手本とされて良いと考えています。

課題はたくさんありますが、引き続き皆様から御理解をいただいて通史につなげて参りたいと思います。



『伊東市史 史料編 近世Ⅱ』の表紙 『伊東市史 史料編 近世Ⅰ』の表紙



鈴木徳太郎伊東町長肖像（静岡県立伊東高等学校 創立五十周年記念誌）と日記の一部（『鈴木徳太郎日記』岡・岩本佳子氏所蔵）

て町政を進めたか。人柄や息遣いまで感じる史料を読むと、政治が一気に身近になります。温泉観光についても、今後に役立つ多くの史料を見いだせることでしょう。

未来を考える手がかりに

江戸時代の一六の村々は、どんな経緯を経て四つの町村にまとまり、観光を主軸とする現在の伊東市へと発展していくのでしょうか。

そこに生きた先人たちは、災害・戦争などの困難を越えてどんなまちづくりをめざしたのでしょうか。

今こそ多くの市民が『史料編・近現代Ⅰ・Ⅱ』を手にとって、これからの伊東を考える手がかりにしたいのだと思います。

伊東市史編さん事業 刊行書一覧

—好評頒布中—

●伊東市史 ★5,000円、☆2,000円

『伊東市史 史料編 古代・中世』★(B5版函入 縦組 本文844頁・口絵カラー図版55点)

——伊東・宇佐美を名字の地として活躍した武士団伊東氏と宇佐美氏の残した史料を全国的視野で集成!

『伊東市史 史料編 近世Ⅰ』★(B5版函入 縦組 本文785頁・口絵カラー図版6点)

——江戸との強い経済的なつながりを示す伊東の古文書544点を精選して活字化!

『伊東市史 史料編 近世Ⅱ』★(B5版函入 縦組 本文772頁・口絵カラー図版18点)

——伊東市域16カ村の村社会、往き来する旅人の姿や幕末の伊東を捉える文書群を精選して活字化!

『伊東市史 別編 伊東の自然と災害』☆(B5版 縦組444頁・うち66頁カラー)

——伊東の大地の形成と自然、繰り返された災害の歴史に焦点をあてた初の通史!

『図説 伊東の歴史』☆(第二刷、オールカラー・A4版 縦組268頁)

——複雑多岐な伊東の歴史を原始から現代まで鮮明な写真と図表で再現し、わかりやすく解説!

『伊東市史 史料編 近現代Ⅰ』★(B5版函入 縦組 本文751頁・口絵カラー図版29点)

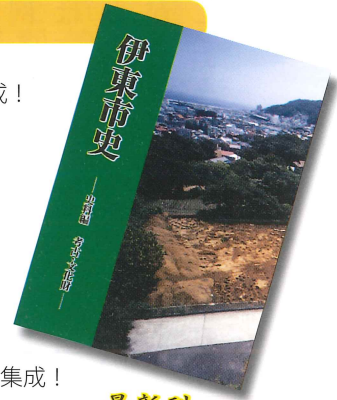
——16カ村の分立から伊東市域に展開した宇佐美村・伊東町・小室村・対島村の1町3村の史料群を集成!

『伊東市史 史料編 近現代Ⅱ』★(B5版函入 縦組 本文786頁・口絵カラー図版37点)

——激動の昭和史と伊東市民の軌跡を後世に伝える史料群を集成!

『伊東市史 史料編 考古・文化財』★**最新刊!**(B5版函入 縦組 本文748頁・口絵カラー図版22点)

——伊東の遺跡出土資料を総覧し、市内の代表的仏像や金石文を集成!

**最新刊**『伊東市史 史料編
考古・文化財』

●伊東市史調査報告 各2,000円

第1集『伊東市の棟札』寺社に秘蔵される棟札の市内悉皆調査記録。宗教史・職人史料の宝庫。

第2集『伊東市の石造文化財』中世石塔・近世墓石・路傍の石仏の悉皆調査。近世墓石の増減グラフに注目!

第3集『伊東市の民俗』初めて行われた伊東市の民俗総合調査記録。

●伊東市史研究『伊東の今・昔』 各1,000円(※創刊号、第2号は品切れ)

- 創刊号** 講演録「海からみた伊東」 網野善彦
品切れ 「火山がつくった伊東の大地と自然」 小山真人
「伊東氏由緒の形成」 盛本昌広
「江戸時代伊豆東海岸の交通」 加藤清志
「子供の守護神としての伊豆の道祖神」 木村 博
「古文書と私」 星野和子
- 第2号** 講演録「伊東一族の五百年」 山田邦明
品切れ 「伊東市川奈姥子窟の考古学的調査」 坂詰秀一・上野恵司・金子浩之
「成長儀礼の歴史と民俗」 古川祐子
「関東大震災に宇佐美の児童はいかに対応したか」 笹本正治
「津波歴史データ集積の重要性」 今村文彦
- 第3号** 講演録「伊東の歴史と文化をどう生かすか」 笹本正治
「伊東と『曾我物語』」 坂井孝一
「元禄地震における伊東での被害と人々の行動」 西山昭仁
「伊東の近代建築とその背景」 建部恭宣
「海の村を建設する—戦時期『海の村』の分析—」 小川徹太郎
- 第4号** 講演録「考古学からみた伊東の歴史」 坂詰秀一
「戦国時代の伊東」 盛本昌広
「近世伊豆国伊東地域における山林利用について」 田上 繁
「近代漁業税の形成とその賦課動向」 佐々木哲也
「鎌田城跡発掘調査概要報告」 考古史料部会
- 第5号** 講演録「源頼朝一族と伊豆」 山本幸司
「明治・大正期静岡県会の漁業税争点と増税反対運動」 佐々木哲也
「大室山をめぐる民俗」 民俗部会

- 第6号** 講演録「海と職人の歴史」 神野善治
「近世伊豆における海村の展開」 泉 雅博
「沢田林・沢田についての考察」 佐藤陸郎
「『三団体事件』を考える」 渡辺秀夫
- 第7号** 講演録「江戸時代の伊東—伊東湊が結びつけるもの—」 田上 繁
「伊東市朝日山経塚の基礎的研究」 時枝 務
「戦国期仁杉氏の動向」 盛本昌広
「旅人・温泉・村・身分—近世伊東の村落社会—(上)」 関口博巨
- 第8号** 講演録「明治・大正期の伊東—市民が綴った地誌を読み解く—」 羽賀祥二
「旅人・温泉・村・身分—(下)」 関口博巨
「近代伊東のかつお節考—伊東水産製造業の史的検討—」 佐々木哲也
「吉田砲台の実測調査」 金子浩之
- 第9号** 講演録「伊東・宇佐美氏の歴史と戦国時代の伊東」 盛本昌広
「近代の伊東における大火と地域の対応」 矢島有希彦
「別荘地伊東」と若槻礼次郎 小宮一夫
「海軍通信学校及び電測学校宇佐美演習所防空壕の発掘調査」 金子浩之
- 第10号** 講演録「繰り返される地震津波被害の実態と教訓」 今村文彦
「『大日本帝国の村』とデモクラシー—役場文書から読み解く大正期の小室村の生活—」 加藤好一
「伊東市史の地元文書史料収集の経過」 加藤清志
「宇佐美遺跡検出の津波堆積物と明応四年地震・津波の再評価」 金子浩之
- 第11号** 講演録「過去の自然と災害に学ぶ」 矢島有希彦
講演録「江戸時代の伊東の姿と漁業」 泉 雅博
「南北朝期東国における石塔氏の動向」 盛本昌広
「伊東氏と平安・鎌倉時代の海運—井戸川遺跡第四次発掘調査の意義—」 浦志真孝

●伊東市史叢書 1~5集1,000円(※1,2,4集は品切れ)

- 第1集『伊東の歴史と民俗寸描—地元新聞紙上にみる伊東の姿—』**品切れ**
- 第2集『伊東における狩野川台風の記録』**品切れ**
- 第3集『伊東温泉のうつりかわり—江戸時代から現代までの資料—』
- 第4集『伊東の文化財』**品切れ**
- 第5集『伊東の学校の歴史』
- 第6集『伊東の自然』1,600円 オールカラー 300頁

申し込み・問い合わせ

伊東市史編さん事業刊行図書は、伊東市内各書店及び伊東市役所5階の教育委員会生涯学習課窓口にて実費頒布しています。市外からの申し込みは、電話 0557-32-1962(生涯学習課市史編さん担当)へお願いします。